

地域連携・貢献活動事業「障害の有無にかかわらない表現活動」

事業代表者（地域連携・貢献活動事業代表者の所属・職・氏名） 教育学部 教授 梶原 良成
構 成 員（所属・職・氏名） 認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館 館長 梶原 紀子

1. 事業の目的・意義

その道のプロに講師になってもらい、事業1～3を通して、障害の有無にかかわらなく、気軽に愉しく表現行為をするための第一歩を提案したい。

2. 研究方法（又は事業内容）

(1) 中津川浩章による出前ワークショップ

他県の特別支援学校等で数多くのワークショップのナビゲーター（案内人）をしている中津川浩章氏（神奈川県小田原市在住）が宇都宮大学教育学部附属特別支援学校に出向き、ワークショップを行なった。体育館にひろげられた3つの長いロール状の紙に、秋休み期間中の親子活動として希望参加した児童、親たちが、クレヨンで描いていた。その様子を何人かの先生たちが見学していた。

10/6 開催 26 家族参加



図(1). 中津川浩章ワークショップ風景
右端に中津川氏

(2) 木工房ヒロクラフトによるワークショップ

もうひとつの美術館の周辺には林があり、その木材を使って、「木工房ヒロクラフト」（那珂川町小口）を営む廣田充伸氏が講師となり、もうひとつの美術館で木材を使ったワークショップを行なった。10/28 開催 4 名参加



図(2). 木工房ヒロクラフトワークショップ風景

(3) 有坂隆三ワークショップ「モノとこころラボ」

有坂隆三氏（美術家、元県立高校の美術教諭、那須烏山市在住）が講師となり、①～④それぞれのテーマごとに障害の有無にかかわらない表現活動を支援した。

- ① 「石にえがく・石でえがく」 8/13 開催 10 名参加
（幼児1名, 小中2名, 障害者1名, 大人6人）
- ② 「消しゴムで描く」 9/10 開催 10 名参加（幼児1名, 小中2名, 障害者2名, 大人5人）
- ③ 「もうひとりの自分をつくる」 10/8 開催
大人4名参加
- ④ 「瞬間造形・ミミクリーズ」 11/12 開催
大人2名参加



図(3-1). 「石にえがく・石でえがく」作品と製作風景



図(3-2). 「消しゴムで描く」風景



図(3-3) 「もうひとりの自分をつくる」
作品(左)と制作風景(右)



図(3-4). 「瞬間造形・ミミクリーズ」作品

3. 事業の進捗状況

予算が申請時の半額になったこと、中津川氏の講師料を予め訊いていなかったことで、大幅に材料費を削ったが、予定していた事業を行なった。

4. 事業の成果

＜事業1＞の成果としては、特別支援学校に出かけ、ワークショップを開催することは初めてのことであったので、特別支援学校における美術教育の現状を知ることができたことは貴重だ。また参加者たちにとっても、初めての体験であり、最初表情が固かったが、徐々にほぐれて、最後には笑顔になっていて、楽しんでいる様子だった。

学校で実施したアンケートでも、また是非やっ

て欲しいとの声が多く寄せられていた。
＜事業2、3＞はもうひとつの美術館でのワークショップ開催ということもあり、参加人数も多くはないが、参加者はそれぞれ“創ること”を楽しんでいた。

5. 今後の展望

＜事業1＞について、今年度は出前ワークショップを開催したのは、特別支援学校1校だけであったが、今後は、県内の他の特別支援学校でも開催し、体験を通して、創作活動はだれもが楽しむことができるということがわかるよう、ワークショップの開催を広げて行きたい。

＜事業2、3＞では、少しずつでも継続して行なうことで、“創ることは楽しいこと”を広げていきたい。